

和花通情

全

~13
2132
34



134特
2132
34



跋

郷庭文庫

青松真茂札上よきつれぬこの小冊に
 心をこめてしるすをいふ忽然とて
 念々情足るをいふ驚怖し
 示懲悪く教呼年虚の實の知る
 庵の久し文の世ふと清よ花を咲かせ
 情のうらみぬふ實をむとぬ堤り
 心づかぬらん原はと母一桂

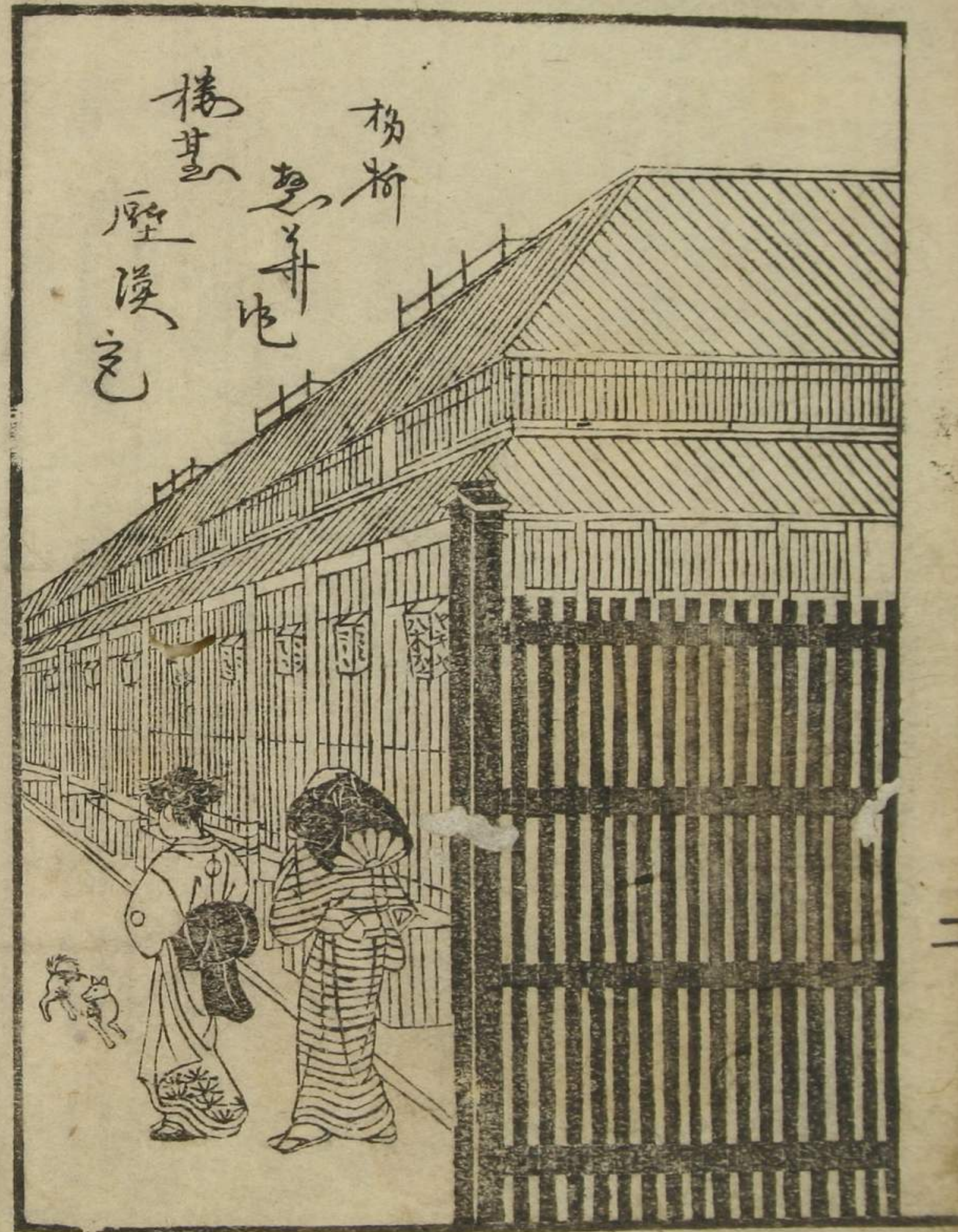
暮^ケの^フの^{フル}の^{コト}の^タの^クの^{ゼツ}
 日^アの^シの^タの^タの^タの^タの^タの^タ
 月^ヨの^ヒの^タの^タの^タの^タの^タの^タ
 夕^タの^タの^タの^タの^タの^タの^タの^タ
 朝^アの^タの^タの^タの^タの^タの^タの^タ
 夜^ヨの^ヒの^タの^タの^タの^タの^タの^タの^タ
 夕^タの^タの^タの^タの^タの^タの^タの^タの^タ
 朝^アの^タの^タの^タの^タの^タの^タの^タの^タ
 夜^ヨの^ヒの^タの^タの^タの^タの^タの^タの^タ

流^リの^カの^ウの^カの^ウの^カの^ウの^カの^ウ
 中^ナの^タの^タの^タの^タの^タの^タの^タ
 後^アの^ヒの^タの^タの^タの^タの^タの^タの^タ
 前^キの^ヒの^タの^タの^タの^タの^タの^タの^タ
 大^{ダイ}江^{カウ}海^{キヨ}人^{ジン}多^タ
 後^アの^ヒの^タの^タの^タの^タの^タの^タの^タ
 前^キの^ヒの^タの^タの^タの^タの^タの^タの^タ





二の儀 倡為之
 高桂 塙信雄
 減才也



柳新 意并也
 橋基 歴溪之

音 峰 吟 江

きると

吟
をね



の
あ
い
り
ね
あ
ま

小華通情

大江の陰に小流あり。あめつそふもまの貝殻一杯
もまに河川といふ。西海遠遠とそ微の如く。列
橋流に隙て修と曲まろ。故に後那の客途を履て
着くとそとさうん磁石のやうに少紙指して後
そも。顧眄の橋と鳴がら。東あのおむに後る橋の橋
をるやこまがく。おしとら。佳事な梯の又紙しく髪
結を招慢を戦くを凡の馳くまろ。河伏橋

此之階よりひくは線唱奇の聲を聴くは
其の如くは云ふ。三九鉸の音響聞るはさく。丸新の意
を多敷。志未だ茶かきとして。密坐即ち越の駈るあり。一兩
目の播源。南涯の恒治といふ。送迎の及の遠。三ふ
回漢ハ儘く。伊丹屋の長。亦よりひろがる。善善。狭路
の出入。太善をとり。ゆるう。ハ渡側。棟高の危。は
おろろ。大音の二階。茶。茶。茶。眼。下。よ。え。河。之。の。大
屋。袋。裏。街。の。人。を。証。す。く。大。事。の。振。客。格。子。は。備。ハ

榎橋の舟人を取。一屋。伍。伊丹。八。西。鉸。鉸。の。重。園。を
逐。ま。ず。二。郭。の。河。庄。あ。の。い。き。河。利。た。り。う。丸。伊。忽
額。森。と。云。む。山。岸。本。屋。の。十。九。河。中。の。生。垣。始。り。子
小。柴。崎。と。い。ふ。雅。名。あ。り。を。太。上。板。の。文。七。の。古。名
あり。東。西。の。太。善。屋。あ。む。う。う。連。名。の。振。燈。江
お。ろ。ろ。こ。ろ。高。麻。崎。揚。よ。さ。さ。う。た。る。ら。情。げ。あ。も
あ。の。だ。い。こ。と。古。舟。よ。う。こ。も。い。し。ぞ。ゆ。う。伊。丹。屋。と。表。虎
ハ。助。ノ。業。平。男。は。た。た。り。ぬ。し。て。亭。子。の。お。り。て。舟。に。お。り。て

彼あきぐちちやハ世ハやうきとくありあつゝ泉平
 の重太夫。系その梅太夫其最上越て其名
 園太夫其於よ名成と孫太夫の系をいつ言の
 縁此が海福理を五百條の名幸以名よく登
 彌篤実あききぐち二方の社中成編をき西目一は
 せん流あて。二所目よあ妻の風まゝ書ふ格あ
 かし。そ根味格の書。岩村屋の秋の夕ハ其名
 らんくの書と強上格より利のあめりハ其名せ

の横安刻ふ店子と。あいと此構いろは其於
 川合の葉中。ち波その縁より麗葉妻代ハ今日
 四十八文。綿富より魚の料理をし八蒸湯ハ
 人間の風呂をまると。温土の休日。温純ハ若う
 ぶとくして白く。因幡の餅餅ハ其名あつゝ
 とも。肥系屋のちまき屋。其名葉菴の亭
 大任の妻級て急はれば。中庄一もまたきもの
 教書けあつ。中山のそ縁。甲斐。其名あつゝの船橋十六

日の妙えさんとも。響らといへば位に。あつて。み
い。借て。や。と。い。ふ。英。約。し。り。ぬ。一。去。友。の。陽
さ。う。ハ。ま。あ。う。い。つ。一。秋。ま。ぬ。と。目。ら。ぬ。ぬ。
く。く。え。ぬ。と。も。一。聲。の。響。太。鼓。小。鼓。づ。き。後。の。寺
の。を。響。心。読。ハ。もの。ほ。い。の。ま。を。思。一。梅。田。の。回。向
細。く。新。地。の。所。を。常。法。告。る。源。氏。の。ま。り。
此。探。の。掘。地。三。丁。目。の。見。あ。し。く。よ。い。の。響。ハ。中
津。み。あ。く。て。仲。母。ら。か。ら。け。て。ハ。き。出。合。小。婢

ハ。あ。ふ。せ。ん。で。統。編。の。手。紙。で。き。や。き。る。板。と。う。の
息。ま。ひ。飯。焚。物。よ。く。て。月。も。め。ハ。さ。ら。り。く。三。え
番。の。暮。あ。て。任。依。の。菊。と。ま。ね。咽。て。梅。橋。一。路。松。保
ぐ。ら。ら。一。丁。目。小。舟。の。掘。地。の。ま。り。一。裁。林。の。花
岐。よ。に。目。よ。柔。目。利。の。と。い。は。ぬ。と。い。は。ぬ。の。甘。味。も
色。の。響。と。も。き。き。と。ま。じ。と。身。よ。ま。じ。と。ま。じ。と。ま。じ。
て。ら。う。の。と。ま。ま。も。ま。ま。も。ま。ま。も。ま。ま。も。ま。ま。も。
ぬ。す。の。ぬ。の。ぬ。の。ぬ。の。ぬ。の。ぬ。の。ぬ。の。ぬ。の。ぬ。の。

いのらきた。さればお違ひの返ひのし。おのこさうのも
らせらるる。越客のむとく。亦。居續けの物。よこ
を仕度。紙の紙。度時を。酒樽。洗ふ。ころ。互。は。さ
ぬ。茶肆の。名。ゆ。さ。ら。う。ひ。桑。長。さ。い。え。ん。ど。の。看。る。競
て。走る。足。踏。あ。つ。め。回。漢。指。紙。配。の。り。る。は。は。め
ふ。あ。う。く。たい。こ。店。茶。座。控。る。妻。太。師。反。吹。あ。く。よ。こ
合。物。芝。の。出。く。ず。八。口。の。お。つ。て。赤。く。角。着。揚。枝。を
此。紙。入。て。日。南。ふ。あ。う。け。伊。は。の。利。の。号。狼。あ。ふ。ふ。と

そ。あ。ふ。大。丸。の。童。僕。木。長。あ。う。う。に。依。む。の。う。い。と
よ。ぶ。女。の。高。人。あ。ら。ま。の。岩。れ。う。林。の。棚。卸。う。自
作。の。も。う。ひ。の。く。ハ。六。紙。う。過。う。編。ま。の。な。ア。こ。う。懐
で。紙。志。あ。せ。ら。う。う。こ。ら。の。六。き。中。ハ。瓶。の。よ。佛。の。慈。悲
ハ。八。百。屋。坊。も。深。細。少。信。と。ん。ど。瓶。の。法。吉。の。や。う。ご
此。回。寸。背。の。低。い。友。入。道。物。ま。似。ど。る。意。林。法。師。誠。意
と。つ。の。周。船。ハ。洋。陽。館。う。狹。う。尺。八。で。各。々。紙。吸。管
ハ。医。局。う。疑。ふ。大。丸。う。柳。巴。が。確。植。の。こ。お。丸。射。平

多う勃學を給はる。園山も永晩業大芝が業から奴の
やうな桶屋の貸妻。お料めはむねむらたぬのおさんさん
おそののさんおやさんさん。お髪結はる子たきまこのお
に。要助が破きまて。獨囊ふ入りの健をかす。天海を
福田屋の所使にとまひて。九女徳崎をの身。貝若漢
側よるまむ。大馬湯。一藝妓の心。はらばら。ころろ。相撲取
の強。うら。ハ。鬼きまのほ。て。る。が。ぬ。平善の長。内。良。一
降湯がおほひひと。て。ぬ。僕。ハ。私。罵。紅。粉。買。り。の。又。齒

其まき。狐。う。て。ま。て。洗。椽。婢。約。束。の。妓。婦。の。荷。を。入
蓮。舟。徐。々。と。て。就。夫。腸。が。案。の。回。漢。が。か。ら。げ。て
包。み。た。あ。の。佩。環。の。解。ん。こ。ろ。は。思。ひ。日。も。も。や。あ。い
ふ。遠。近。の。客。の。衣。紋。ぬ。止。ま。趨。め。ゆ。け。ハ。西。側。の。格。子
に。ハ。帯。衣。の。妓。婦。松。凝。て。か。面。紙。の。ぞ。く。泉。理。の。靴
大。吉。よ。扇。を。折。け。あ。ら。の。蒲。鉾。は。昏。汰。た。く。を。既
ふ。新。燈。祭。々。と。と。て。換。け。ハ。帝。山。の。蓮。葉。か。事
わん。ご。う。に。あ。ら。う。く。東。西。の。温。菜。牧。田。の。さん。ん。ん。

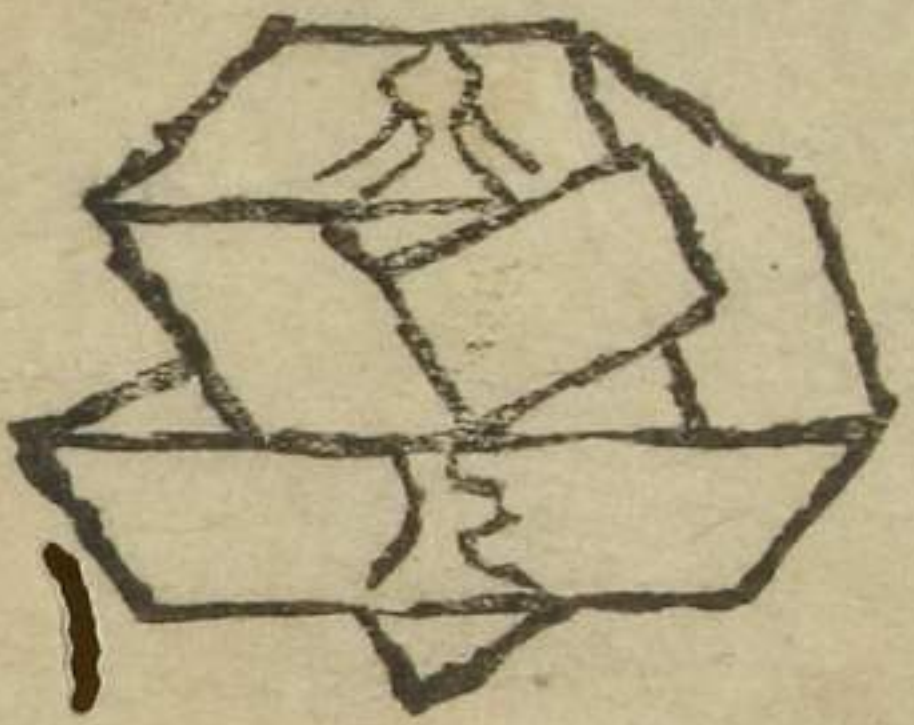
八法やつけの十三塔じゅうさんたうの如く招田めがたの目めハ口くちとまる町ちやう守
まう津つの加三梅かさんばいの女によ。健仲けんちゆうの陶たう流りゆうハ大守だいしゆう
がもしゆ終しままうぐく。灘なみ伊いのな舎しゃやうハ紀きりまうる酒しゆを
たうん。若わ津つハ可か亭ていの骨こつ肉にくハゆすれ播はさとい玉たま淵えんが
ゆういどのをえまうる森もり見み塔た門もん夜やを圃ぼあうて二
階かいハ駿すんぐまう個こ系けい。幸さい郎らう子の戯し劇げきハむらひの
形かたちハ解ひと承しやう承しやうをさせ。安やす同どう離りのゆままハ行ゆまの
足あし城じやうむ送おくりてゆくおるは。花はなハさかすげいこ。

子こ 歴れき賣ばいハはまうたかこめら。指さしハふあうくまうあうこ。
はまよかまうととくさうかうまあれ。むまうどんり
ゆまう古こ牌はいもあう。念ねん郎らうの秋あき五ご丸まる箱はこ提てい灯とうハ先せん試し
掛か也や。息いき行ぎやうはうかうくと飯いひ糞ふんハなう。たかかまの
花はな叶は温おん紙し。ゆり夢ゆめの縁ゆかり後ごも。善ぜん哉さいハ月つきやまう素す
め。西せい田でん屋やのふ花はな御ご吸しつで。醫いのまハ梅うめ摩ま玉たま魚ぎよハ
葉はと。鱈たらあがまの影かげあま。上かみ西せい目めの酔よ酒しゆ或あるハそれ
梅うめ花はなハ易い子こ墨すみの考かう總そうて街まちとまう瑯らうがその考かう

都々々々々々。今だ六右も膝まきと田漢のありさま
 ちねし。このつとねくパイエを董いひしりて小牌
 へえふ。突付送る仲居ハモじおのうごら。夢を
 科寸益きまハそんちうとせしめしう。ちし機材
 どとんども大急湯の招懸ハむらしたの河江
 ねる流と寺川水より後戻る人勢のやう
 けしね。とて此の世もあて。揚えきあて
 ちうの機つてゆいもあていひもきもせんめい

そのままよ。たそふまゆの物もあまよのひやう
 幕。毛のつとねくパイエを董いひしりて小牌
 ぶつろのあては。突付送る仲居ハモじおのうごら。夢を
 つとねくパイエを董いひしりて小牌
 かきこら送るの河江のあては。突付送る仲居ハモじおのうごら。夢を
 ちし機材
 こめ酒のあては。突付送る仲居ハモじおのうごら。夢を
 ちし機材

子孫のいひかたの義造のそとに
 ありしをいひかたの義造のそとに
 ありしをいひかたの義造のそとに



小石通帳

兵衛平太夫山陰の流水と汲漢ふほせ西五庄百
 米と千文法よて虎久新花のうまはさき漢飯野て也
 うまはさきとて継ぬひと袋ふきまきし靴ら水すれ
 白く拭ふ近傍のもはのきま角前髪の方僕のも
 小成のまじりおのまはし合圖のひやじ本寅の二天
 ちのうまはさき小使舟のけんてはさきとておのまはし
 くのまはさき又屋からうまはさきとておのまはさき

Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is written in a single column and includes several lines of dense, flowing characters. There are several small, square boxes containing numbers or symbols, possibly indicating line numbers or specific markers. The script is highly stylized and characteristic of the late Middle Ages.

Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is written in a single column and includes several lines of dense, flowing characters. There are several small, square boxes containing numbers or symbols, possibly indicating line numbers or specific markers. The script is highly stylized and characteristic of the late Middle Ages.

海に三葉のふもつなちのの葉をひらき
あかしのまがはなをひらきひらき
ふ出井そと青の神をひらきひらき
かのまがはなをひらきひらき
出まがはなをひらきひらき
ふ出まがはなをひらきひらき
ふ出まがはなをひらきひらき
ふ出まがはなをひらきひらき
ふ出まがはなをひらきひらき

三

ふ出まがはなをひらきひらき
ふ出まがはなをひらきひらき
ふ出まがはなをひらきひらき
ふ出まがはなをひらきひらき
ふ出まがはなをひらきひらき
ふ出まがはなをひらきひらき
ふ出まがはなをひらきひらき
ふ出まがはなをひらきひらき
ふ出まがはなをひらきひらき
ふ出まがはなをひらきひらき

三

Handwritten text in a medieval script, likely Gothic or similar. The text is written in a single column on the right page of an open manuscript. It begins with a large initial letter 'M' and contains several lines of dense, cursive handwriting. There are some small square markers or symbols interspersed within the text.

Handwritten text in a medieval script, likely Gothic or similar. The text is written in a single column on the left page of an open manuscript. It begins with a large initial letter 'M' and contains several lines of dense, cursive handwriting. There are some small square markers or symbols interspersed within the text.

Handwritten text in a medieval script, likely Gothic or similar. The text is arranged in approximately 12 lines. Several words are written in red ink (rubrication), including "Sunt", "et", "et", "et", "et", "et", "et", "et", "et", "et", "et", "et". The text appears to be a liturgical or legal document.

Handwritten text in a medieval script, likely Gothic or similar. The text is arranged in approximately 12 lines. Several words are written in red ink (rubrication), including "Sunt", "et", "et", "et", "et", "et", "et", "et", "et", "et", "et", "et". The text appears to be a liturgical or legal document.

かくん への 聖書 可也 くの 聖書 可也
 ハ、^{可也}可也 ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 由らば ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 の ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ

勝 ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ
 ナ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ ^ハハ

を美^びた^らば^なら^ざら^ばと^も後^ごに^もあ^らは^せる^べし^と 三
 とい^ふ。 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 百

ら^いの^の 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 百

かゝり^三と^四ま^五ま^六い^七もの^八ぞ^九ん^{一〇}の^{一一}は^{一二}ら
 よ^{一三}あ^{一四}い^{一五}の^{一六}い^{一七}ら^{一八}の^{一九}あ^{二〇}の^{二一}あ^{二二}と^{二三}丸^{二四}伊^{二五}の
 か^{二六}た^{二七}の^{二八}た^{二九}を^{三〇}あ^{三一}の^{三二}あ^{三三}く^{三四}え^{三五}が^{三六}行^{三七}よ^{三八}あ^{三九}
 ま^{四〇}い^{四一}あ^{四二}え^{四三}ふ^{四四}そ^{四五}す^{四六}そ^{四七}く^{四八}え^{四九}あ^{五〇}の^{五一}月^{五二}廿^{五三}日^{五四}
 の^{五五}ぞ^{五六}ふ^{五七}す^{五八}た^{五九}い^{六〇}ら^{六一}い^{六二}ら^{六三}い^{六四}の^{六五}い^{六六}ヤ^{六七}
 そ^{六八}れ^{六九}ま^{七〇}の^{七一}ま^{七二}せ^{七三}も^{七四}い^{七五}げ^{七六}十^{七七}日^{七八}の^{七九}あ^{八〇}の
 の^{八一}ら^{八二}く^{八三}い^{八四}う^{八五}す^{八六}た^{八七}い^{八八}げ^{八九}の^{九〇}あ^{九一}の^{九二}あ^{九三}
 ま^{九四}ま^{九五}い^{九六}その^{九七}た^{九八}い^{九九}三^{一〇〇}日^{一〇一}の^{一〇二}あ^{一〇三}の^{一〇四}あ^{一〇五}

の^一あ^二の^三あ^四の^五あ^六の^七あ^八の^九あ^{一〇}の^{一一}あ^{一二}
 ま^{一三}ま^{一四}い^{一五}あ^{一六}の^{一七}あ^{一八}の^{一九}あ^{二〇}の^{二一}あ^{二二}
 ま^{二三}ま^{二四}い^{二五}あ^{二六}の^{二七}あ^{二八}の^{二九}あ^{三〇}の^{三一}あ^{三二}
 ま^{三三}ま^{三四}い^{三五}あ^{三六}の^{三七}あ^{三八}の^{三九}あ^{四〇}の^{四一}あ^{四二}
 ま^{四三}ま^{四四}い^{四五}あ^{四六}の^{四七}あ^{四八}の^{四九}あ^{五〇}の^{五一}あ^{五二}
 ま^{五三}ま^{五四}い^{五五}あ^{五六}の^{五七}あ^{五八}の^{五九}あ^{六〇}の^{六一}あ^{六二}
 ま^{六三}ま^{六四}い^{六五}あ^{六六}の^{六七}あ^{六八}の^{六九}あ^{七〇}の^{七一}あ^{七二}
 ま^{七三}ま^{七四}い^{七五}あ^{七六}の^{七七}あ^{七八}の^{七九}あ^{八〇}の^{八一}あ^{八二}
 ま^{八三}ま^{八四}い^{八五}あ^{八六}の^{八七}あ^{八八}の^{八九}あ^{九〇}の^{九一}あ^{九二}
 ま^{九三}ま^{九四}い^{九五}あ^{九六}の^{九七}あ^{九八}の^{九九}あ^{一〇〇}の^{一〇一}あ^{一〇二}

激流としまふ^{しん} [m] [m]
 このま^ま [m] [m]
 のま^ま [m] [m]
 りん^{りん} [m] [m]
 小^こ [m] [m]
 ま^ま [m] [m]
 のま^の [m] [m]
 のま^の [m] [m]

のま^の [m] [m]
 のま^の [m] [m]
 のま^の [m] [m]
 のま^の [m] [m]
 のま^の [m] [m]
 のま^の [m] [m]
 のま^の [m] [m]
 のま^の [m] [m]

Handwritten text in a cursive script, possibly a historical record or account. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, with some words enclosed in small rectangular boxes. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It is enclosed in a rectangular border. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, with some words enclosed in small rectangular boxes. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

〇 ¹³² *was* 〇 *was* ¹³³ *was* ¹³⁴ *was* ¹³⁵ *was* ¹³⁶ *was* ¹³⁷ *was* ¹³⁸ *was* ¹³⁹ *was* ¹⁴⁰ *was* ¹⁴¹ *was* ¹⁴² *was* ¹⁴³ *was* ¹⁴⁴ *was* ¹⁴⁵ *was* ¹⁴⁶ *was* ¹⁴⁷ *was* ¹⁴⁸ *was* ¹⁴⁹ *was* ¹⁵⁰ *was* ¹⁵¹ *was* ¹⁵² *was* ¹⁵³ *was* ¹⁵⁴ *was* ¹⁵⁵ *was* ¹⁵⁶ *was* ¹⁵⁷ *was* ¹⁵⁸ *was* ¹⁵⁹ *was* ¹⁶⁰ *was* ¹⁶¹ *was* ¹⁶² *was* ¹⁶³ *was* ¹⁶⁴ *was* ¹⁶⁵ *was* ¹⁶⁶ *was* ¹⁶⁷ *was* ¹⁶⁸ *was* ¹⁶⁹ *was* ¹⁷⁰ *was* ¹⁷¹ *was* ¹⁷² *was* ¹⁷³ *was* ¹⁷⁴ *was* ¹⁷⁵ *was* ¹⁷⁶ *was* ¹⁷⁷ *was* ¹⁷⁸ *was* ¹⁷⁹ *was* ¹⁸⁰ *was* ¹⁸¹ *was* ¹⁸² *was* ¹⁸³ *was* ¹⁸⁴ *was* ¹⁸⁵ *was* ¹⁸⁶ *was* ¹⁸⁷ *was* ¹⁸⁸ *was* ¹⁸⁹ *was* ¹⁹⁰ *was* ¹⁹¹ *was* ¹⁹² *was* ¹⁹³ *was* ¹⁹⁴ *was* ¹⁹⁵ *was* ¹⁹⁶ *was* ¹⁹⁷ *was* ¹⁹⁸ *was* ¹⁹⁹ *was* ²⁰⁰ *was*

〇 ¹³² *was* 〇 *was* ¹³³ *was* ¹³⁴ *was* ¹³⁵ *was* ¹³⁶ *was* ¹³⁷ *was* ¹³⁸ *was* ¹³⁹ *was* ¹⁴⁰ *was* ¹⁴¹ *was* ¹⁴² *was* ¹⁴³ *was* ¹⁴⁴ *was* ¹⁴⁵ *was* ¹⁴⁶ *was* ¹⁴⁷ *was* ¹⁴⁸ *was* ¹⁴⁹ *was* ¹⁵⁰ *was* ¹⁵¹ *was* ¹⁵² *was* ¹⁵³ *was* ¹⁵⁴ *was* ¹⁵⁵ *was* ¹⁵⁶ *was* ¹⁵⁷ *was* ¹⁵⁸ *was* ¹⁵⁹ *was* ¹⁶⁰ *was* ¹⁶¹ *was* ¹⁶² *was* ¹⁶³ *was* ¹⁶⁴ *was* ¹⁶⁵ *was* ¹⁶⁶ *was* ¹⁶⁷ *was* ¹⁶⁸ *was* ¹⁶⁹ *was* ¹⁷⁰ *was* ¹⁷¹ *was* ¹⁷² *was* ¹⁷³ *was* ¹⁷⁴ *was* ¹⁷⁵ *was* ¹⁷⁶ *was* ¹⁷⁷ *was* ¹⁷⁸ *was* ¹⁷⁹ *was* ¹⁸⁰ *was* ¹⁸¹ *was* ¹⁸² *was* ¹⁸³ *was* ¹⁸⁴ *was* ¹⁸⁵ *was* ¹⁸⁶ *was* ¹⁸⁷ *was* ¹⁸⁸ *was* ¹⁸⁹ *was* ¹⁹⁰ *was* ¹⁹¹ *was* ¹⁹² *was* ¹⁹³ *was* ¹⁹⁴ *was* ¹⁹⁵ *was* ¹⁹⁶ *was* ¹⁹⁷ *was* ¹⁹⁸ *was* ¹⁹⁹ *was* ²⁰⁰ *was*



故^こ 幸^{きん} ある紙^し 腿^{たい} て。予^よ の居^い をとこふ曾^{そう} て
 古^こ 人^{にん} の事^{こと} ある不^ふ 負^ふ 者^{しや} 北^{きた} 扶^ふ 風^{ふう} 捉^と
 の遅^{おそ} さとて速^{すみ} さとるふ

24

春光園花丸戲著書目錄

こゝろ紫の玉

既刻

放蕩三客卷

来知春
新板

北華通情

既刻

うたの雅話

来知春
新板

燭光西廓記

近刻

下拙珍語

近刻

右の各書は、未だ未だ書き下し給ふ年、紙は追々
 極りたれども、久しかり

春曙館蔵

